ふたかみNEWS プチトマト

社会福祉法人　ふたかみ福祉会
583-0856
大阪府羽曳野市白鳥3丁目16-3-102
発行責任者：寺村美知子
編集責任者：関口奈緒美
TEL　072-959-3221
FAX　072-957-1604
Email　futakami@hi-ho.ne.jp
http://www.futakamifukushi.sakura.ne.jp/

♪ 2018 チャリティーコンサート ♪

大阪桐蔭高等学校のみなさん ありがとうございました

6月17日（日）、ＬＩＣはびきのにてふたかみ福祉会後援会主催の「チャリティコンサート」が行われました。
会場を埋め尽くす沢山のお客様を前にして、練習してきた歌声を届けることが出来ました。
2部のゲスト、大阪桐蔭高等学校吹奏楽部のコンサートも大盛況でした。
当日ご協力して下さった皆様、ありがとうございました。

◆罪を犯した人たちへ～よりそい支援～

全国就業支援ネットワークが開催している定例研究・研修会に出席し、2日間の研修の中で、長崎県地域生活定着支援センター所長からの「罪を犯した人たちの支援」をテーマとする分科会に参加しました。

地域定着支援センターとは、矯正施設出所時に「帰る場所がない障害者や高齢者」の方が出所後も罪を犯さず困らずに安心して生活ができるように、受刑中から支援を実施している機関です。

はじめに、胸に刺さったある出所者の言葉「刑務所を出所することが怖かった」という話に会場の空気が変わりました。冷暖房がなく、イジメも当然のようにあるが、「行くあてもなく、頼る人もいない外よりは良い」との理由からでした。

障害がありながらも支援を受けることなく罪を犯してしまった人、何十年も繰り返している人が刑務所の中には多く居るとのことでした。

支援をする中で「大切にしている事」について、「罪名のイメージに関係なく、なぜその罪を犯してしまったのか」について考えることが大事だと話されていました。始めは、「いかに威厳を保つか、なめられないようにするか」という気持ちがあったが、そうではなかった。威厳を保たれた状態では本質は見えず、結局救うことはできない。また、福祉に繋がったからといってハッピーエンドではなく、何度も罪を犯してしまう人も多い。それでも、繰り返しながら少しずつその人の幸せを見つけていくことが大切だと話されていました。

「福祉」だけで支えることはできないため、司法との連携なども必要になってくることと、制度や資源について知っておくことはもちろん必要ですが、制度にあてはめすぎず、当てはまらなくても諦めず、目の前にいる人と向き合っていくことが、私たちに必要な力であることを改めて感じました。（伊藤）

◆きょうされん全国総会◆

5月23日に東京で行われた総会に、ふたかみ福祉会から当事者を含め3名で参加してきました。初めての参加でしたので期待と不安があり、12時から19時までの長期戦で「大変だったけど頑張った」と一緒に参加した方が話しておられました。ほかにも全国から40名の当事者の参加があり、発言も活発に行われていました。「私たち抜きに私たちの事を決めないで」と言ってきたきょうされんで、運動の方針が決まる場に当事者の代表がいる事の大切さを再確認できました。

総会では2022年までの5年間でやりきる目標を掲げた「ビジョン2022」を採択しました。誰もが安心して暮らせるように、憲法を守っていく事などを進めていく為に5つの重点課題を確認しました。きょうされんを知ってもらい、支援者を広げ私たちの活動をさらに広げていこうというものです。この間政府の出す政策を当事者の立場から考えて、よくない部分には反対をしてきました。過去には自立支援法や食事提供体制加算などを、世論を味方につけながらはね退けてきました。そこでも当事者に寄り添い正論を言い、なかまを増やすことができるかがカギだった事を痛感しています。

一貫して当事者の立場に立ってきたきょうされんの活動をしっかり進めていく事が、困っている事を改善したり新しい制度を作っていく一歩になる事を改めて感じてきました。日々の実践は大変で、余裕もありません。でも私たちは現場をしっかり見つめて、目の前にいる障害のあるなかまやその家族が困っている事や、不便さを感じている事を少しでも改善できるようにしていきたいです。それを全国のなかまと共有して誰もが生きやすい社会に近づける事が出来るようにしていきたいと強く感じました。（関口耕）

◆第41次国会請願署名に参加◆

5月24日（木）、きょうされん第41次国会請願署名に参加しました。

全国各地から400名を超える仲間、家族、職員が集まり、全国の皆さんに協力いただいた100万筆の請願署名を持参し、グループに分かれ各議員室を訪問しました。

直接議員の方々に会えない、または署名を受け取ってもらえない等のもどかしい思いも味わいながら、ひとりひとりが、今、自分自身が生活をしている厳しい現状や、将来の不安に対して、切実に訴えていくことができたと思います。特に、当事者である仲間達が、直接、議員や秘書の方々に、訴えた声や思いは、今回、お話をさせていただいた方々には、より現実的に、受け止めていただけたのではないかと感じました。それ以外にも、政党懇談会や厚生労働省懇談会に参加した班もあり、そこでも自分たちの思いを、それぞれの立場で伝えることができました。

こちらの思いが伝わり、しっかりと話に耳を傾けてくれる方、その反面、ただ書面を読み上げるだけの省庁職員の方、様々な方がいらっしゃったようですが、その中でも、あきらめることなく、媚びることなく、粘り強く、みんなの思いを主張することができたと思います。

今回の請願項目にあがっている、「1．障害のある人の所得を保障し生活を支援する制度の確立。2．福祉事業所の報酬体系の抜本的な見直し。3．障害者総合支援法の介護保険優先原則の廃止。4．地域活動支援センターが安定運営できるよう、国の予算を確保。5．障害関連予算の配分率を先進国の平均値なみに引き上げる。」これら5つの制度改革を実現させるべく、引き続き各地域での活動を活性化させ、今後も、全国みんなの声を伝え続けたいと思います。

（大竹）

◆成果主義社会がうみだした事件◆

津久井やまゆり園の殺傷事件から今月の26日で2年を迎える事になります。戦後起きた最悪の大量殺人事件で、しかもその犯人は元施設職員だったという事が今でも私たちの心に刺さり続けています。

しかし、その本質がいまだに総括されていないと思っています。事件を起こした植松被告には同情の余地はありませんが、彼の恐ろしい思想は私たちの生きる社会の中で作られたものであるという事です。彼がどういう背景で事件を起こすに至ったか、過激な思想を育ててきたのかはあまり語られていないように思います。

彼も初めは福祉を志し、私たちと同じ職に就いたと思います。行き過ぎた個人主義と、成果主義が求められる中で、生きにくさを抱えた人の気持ちに寄り添う優しさがもてなくなり、そこで追いつめられ、ほかの人を認める事が出来にくくなっていったのではないでしょうか。

今の社会は、そういった中で強い者のみが大切にされる優生思想が復活しやすい土壌が作られているようにも思います。

戦前は個人よりも国家が大切にされ、それを反省して作られたのが日本国憲法です。そこには個人が幸せに生きる権利がある事がはっきりと書かれています。それだけではなく、障害者の権利条約にも他の者との平等が謳われています。私たちはそれを根拠に自分や、その周りの人が幸せになる事を求めています。目の前の実践だけにとどまらず、困っている人が居れば一緒に悩み、一緒に考える。いろいろな方と手をつなぎ、相互に支え合える社会を、障害者実践を通して実現できるようにしていきたいです。改めて亡くなった19名の方のご冥福と、傷を負われた方の一日も早い回復をお祈りいたします。

（関口耕）

◆ふたかみ福祉会　後援会総会

ふたかみ福祉会後援会総会が、5月24日（木）に行われました。2017年度の活動報告では、芥川高校和太鼓部をゲストに盛況に終わったチャリティーコンサートの目標を達成したものの、広がりという点では課題を残した会員拡大、バザーを年間2回開催する事への懸念などの声もあり、総会での意見を踏まえて2018年度、そして今後を見据えた後援会活動のありかたを模索していきたいと思います。

会長には、ぶどうの家診療所の大畑先生に今年も引き受けて頂きました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

後半は大畑先生の講演となり、今回は筋肉についてのお話でした。古い筋肉を壊し、新しい筋肉を作ることが大切で、その為に必要なのが運動、たとえばスクワット後に散歩（筋肉痛にならないと意味がないそうです）。そして、タンパク質を毎食バランスよく摂取する事だそうです。分かりやすくお話して頂きありがとうございました。

（竹田）

7月イベント☆自主製品販売

ハピバール

22日（日）BON！BON！MARCHE　＠花の文化園
29日（日）夜カフェ

はびきの園

18日（水）葛井寺
22日（日）BON！BON！MARCHE　＠花の文化園
25日（水）道明寺天満宮
28日（土）滝谷不動尊

普段関わりのある方々が雑貨屋さん、食べ物などの出店や子どもたち向けの催し等をしてくださり、1周年記念を楽しく過ごすことができました。

【18年度6月】後援会入会及び更新の方々（敬称略）

大畑和弘　以上6口
中島圭一
関口耕一郎　関口奈緒美　以上5口
春日久美子　以上4口
中村洋子　桑原一章　谷口美喜子　以上3口
北川昭子　北川康彦　荒田貴美子
中桐淑子　倉木暁子　嶋宏明
岩崎浩一　長谷輝子　佐々木有馬
藤田隆晴　山本信行　谷佐代子
佐藤裕美　西村和子　池田聡子
戸田勝浩　山口元子　村上麻里子
伊藤由布紀
井手ケイ子　梅田明　山口鋼一
八木恵美子　川端悦子　中村肸子
永田博子　橋本妙子　奥長靖久
藤田千代子　竹田雅典　齋藤照恵
竹田由美子　田中美希　鎌田修平
田中ひろみ　田中健　澤下則子
荒田明美　奥克太郎　内田純司
小林千重子　辻本祐子　藤よし子
多田えり子　浅尾大洋　橋本哲夫
以上1口

【寄付・寄贈】

谷佐代子　様
奥長靖久　様
細川直幸　様

【ボランティア】

であい　様
畑英作　様
細川直幸　様
松倉和代　様

【アルミ缶回収】

690kg

編集部の独り言

大阪北部が震源の地震から、自分達の踏みしめている地盤が揺らぐのは、物質的な支えを失うことは当然としても、気持ちの面での安定も根本から脅かすものだと、連日の報道等に接して感じました。

（あづま）